

こまがね市民活動支援センター

ばとなだより

Patona

第2号
2010.3



駒ヶ根市中央16番7号
Komagane-shi, chuo, 16-7

TEL : 82-1150 FAX : 82-1151
Mail : kmcenter@cek.ne.jp

安心してより良い出産を

【安心して安全な出産ができる環境を考える会 in 伊南】



医療アンケートの集約作業 (P-2)

この指とまれ

【夢倶楽部しらかばの会】



ノーバディズパーフェクトワークショップより (P-2)

お花を飾って商店街にお客様を

【笑店塾】



みんなでクリスマスチューテづくり (P-3)

花と緑で幸せに

【駒ヶ根花と緑と水の会】



みんなで楽しく花壇の手入れ (P-3)

区紹介②

【東伊那区】



東伊那地区大運動会 (P-4)

ばとなからのお知らせコーナー

- **開館日、利用時間変更について**
4月からばとなのご利用日、週末のご利用時間が一部変更になります。
- **「利用者連絡会」の開催について**
利用登録されている団体、グループ間の相互交流やばとなの利用等について話し合う利用者連絡会を4月から開催します。
- **展示コーナーをご利用ください**
市民の皆さんの力作をばとなに展示してみませんか？お待ちしております。
※詳しいお問合せは、センター職員までご連絡ください。

出産環境が整い、
選択肢がひろがれば

安心して安全な出産ができる
環境を考える会（in伊南）



須田秀枝さん

「個人の産婦人科医院が六月には開院します。伊那中央病院、市内三カ所の助産院とともに、出産の場所、方法を选べるようになります」と、須田秀枝さん。

〇八年四月から昭和伊南総合病院で出産ができなくなり、伊那中央病院に上伊那のお産が集約されるといふニュースが駆け巡ったのは〇七年夏でした。

危機感を募らせた市民から、子育て支援グループの代表を務める須田さんに「地元でお産ができなくなる。なんとかならないでしょうか」という電話が入りました。「伊南のお産を守るために市民レベルでできることはないだろうか」と、子育てサークルメンバーが中心になって、開催した勉強会「昭和伊南総合病院から産科がなくなるって本

当ですか」に参加された方を中心に同年十月に会を立ち上げました。

妊産婦やご家族に正確な情報を提供しようと、病院勤務の助産師、開業の助産師、保健師など立場が異なる専門職を交えての勉強会や情報交換会の開催、関係機関への母親や市民の声、意見の伝達、より良い出産環境を整えるための働きかけなどに積極的に取り組み、このことが、お産に関する市民の関心の高まりや、産科医師が新規に開業する動きにもつながったかもしれません。

また、一年半かけて集約化前と集約化後に出産した母親を対象に実施した「産科医療アンケート」は一月二十九日に最終報告会を行いました。出産されたお母さん方からいただいたたくさんのご意見は有効に活かさなくてはと思います。

須田さんは「今後も、妊婦さん交流会を継続し、病院や助産院、開業医、市町村の母子保健担当の方々とも協力して出産環境を整えるために引き続き取り組んでいきたい」と、会員を募集しています。

代表・須田秀枝さん
連絡先・市内赤須東六の五八
電話・八一―五六一二
会員・六十一人

「街角に聴く文化」を
テーマに心の支援をめざして

夢俱樂部しらかばの会

この指とまれ

私たちは、夢俱樂部しらかばコミュニティコーナーをご縁にながった輪です。

私たちは、ひとり一人が対等な人として独立しながら、私たちの幸せにとって大切なこと、力を合わせる必要があるときには、心をひとつに具体的に動くことですね

絵本、スイミーのように、その時々、「ほくが目になる」と言っただ人のもと、賛同する魚となつて一緒に泳ぎます。

そして、小さな魚たちは、一匹の大きな魚になります。



有賀和枝さん

長年スクールカウンセラーを務めている、臨床心理士の有賀和枝さんは、訪問相談や学校などで引きこもりの方々や家庭の声を聴い

てきた経験から「街角に聴く文化」を広げたいと、〇八年、小路のしらかば玩具人形店をリニューアルし、「夢俱樂部しらかば」をオープンしました。一階はこだわりの木の玩具とコミュニティコーナー、二階にカウンセリングスペースを設けました。

そのコミュニティコーナーから生まれてきたのが夢俱樂部しらかばの会とその活動です。私たちの幸せにとって、必要な心の支援を一つひとつ形にしていこうとしています。

〇九年度、取り組んだのは若い母親を対象とした「ノーバディズパーフェクト」(誰も完璧ではない)プログラムです。昨年の講演会に続く八回のセッションの中で感動的な気づきと人のつながりが生まれてきました。命が誕生したその日から始まる母子、家族の係に、具体的に関わっていくひとつの手ごたえを感じたそうです。会是谁でもスイミーの「目」になれます。どんな魚になるのか、それを会は模索し続けたいと思っています。

代表・有賀和枝さん
連絡先・市内広小路
電話・八三―三七五三三
会員・十五人

お花を飾って、
商店街にお客様を

笑店塾



お店にかざった作品

春から晩秋まで、駒ヶ根市の中心商店街は約八百鉢のサファイニア（ペチュニア）のプランターで彩られています。プランターは歩道脇に置かれたり、アーケードからつるされ、道行く人々に潤いを与えています。

「街を少しでもにぎやかにしたい」と願い「女性にできることはないだろうか」と考えた中心商店街の商店のおかみさんたちでつくる「笑店塾」が五年前から市商工会議所の協力を得て続けています。

同会はこのほか、クラフト講習会やラッピング講習会、多肉植物、観葉植物の寄せ植え、情報交換会にも取り組んできました。

会には会長や会計など役員は一切なく、様々な活動において得意な方がリーダーとなって進めていくというユニークな会でもあります。

郊外や伊南バイパス沿いに大型商業施設が次々とオープンし、商店街を取り巻く環境は年々厳しくなっています。

市は十年前、中心商店街の活性化を目的に駅前立体駐車場を整備しました。しかし「高齢者は歩くのが大変、店の前に車を止めて、買い物をしていただくのが理想のようです。立体駐車場から買い物客を商店街にどう誘導するかが課題。花鉢を並べるのも、その手段の一つです」と守屋千里さん。

昨年、地域振興策として発行したプレミアム商品券について「前回常連のお客様のほか、新しいお客様の利用がありました。景気の低迷で、なかなか思い通りにいかなかったのではというのが感想です」

でも、おかみさんたちは元気で、「花の植え付けの共同作業は楽しい。役員だけでなく、全員が参加する、みんな同じ方向を向いていることが実感できる。若い人たちも参加し、ユニークな意見を出してくれる。そのうちに、きつとすばらしいアイデアが生まれるのでは」と期待しています。

連絡係・守屋千里さん
連絡先・八三二二五二二
会員・五十人

花と緑で幸せに

駒ヶ根花と緑と水の会



長尾孝雄さん

「花と緑を通じて幸せになる」という園芸福祉の理念のもと、市が○三年度に実施した「駒ヶ根市花と緑のサポーター養成講座」を修了、駒ヶ根市花と緑のサポーターに認定された仲間が○四年四月に設立。○四年度の修了生、一般市民も加わり、会員みんなが楽しみながら、理解し協力し合って花づくりに取り組んでいます。

主な活動は福祉施設での園芸活動の支援、駒ヶ根らしい緑化の在り方を求めて、スキルアップ講座への参加、オープンガーデンの普及です。「講座で学んだことを実践し、社会に役立てよう」と実施しているのが、昭和伊南病院と千寿園の花壇管理です。会員の施設を借りて、種から苗を作り、夏、秋花壇に植え付け、除草、施肥などを行っています。「苗作りは難しく苦労が多いので購入しようかという意見もありましたが、地元で育てた苗は気候に合い、丈夫で長期間咲き続けることから続けています」

と長尾孝雄さん。花壇は環境に合わせて花の種類を選んでいきます。

「来院した患者の家族や見舞客から『院内では重苦しい気持ちだつたけれど、一歩外に出て、花を見てほっとしました』という言葉を聞き、やりがいを感じました。千寿園では利用者の癒しになつているとお聞きしています。利用者と一緒にはらわアレンジメントもしました。参加者の表情が生き生きして、出来上がると大喜びしていたのが印象的でした」。

昨年からは本格的にオープンガーデンに取り組み、県内各地から約百人が訪れ、駒ヶ根らしいガーデンを見ていただき、交流を深めることができました。

今年には東京で駒ヶ根産の植物を使った苔玉づくりの実演と販売を計画しています。

「花や園芸福祉に関心のある人は一緒に活動しませんか」と会員を募集しています。「丹精込めたお庭を公開しませんか」とオープンガーデンへの参加も呼びかけています。

代表・長尾孝雄さん
事務局・市内赤穂三三八九一
（小原茂幸さん宅）
電話・八三二一四六二
会員・四十五人

区紹介 ②

「東伊那区」

市域まわりの農村公園に



林 政衛さん

銀色に輝くアールチがシンボルの天竜川駒見大橋を渡る時、東伊那区の

のどかな田園風景が広がります。水田やリンゴ園、イチゴハウス、ブドウ畑が点在しています。

二十数年前、地域住民が「地域振興のために何かをやらなくては」と、市と協働で描いた「市域まるごと農村公園構想」は人々の熱意と努力で、ほぼ構想通りに推移し、成果を上げています。「西日が当たる東伊那は果物栽培には最適、糖度の高いおいしい物が獲れます。消費者の評判も良いようです」と話すのは同区統合後七代目となる区長の林政衛さん。

栗林、伊那耕地、火山、塩田、大久保の五区を七年前に統合、東伊那区として発足しました。「行政区は統合し、順調に回り始めましたが、分館や東伊那を愛する会、高鳥谷を愛する会など各

組織はそのまま。将来的には考えていく必要があります。シルクミュージアムは特徴ある施設であり、菜々ちゃんレストランのにぎわいには目をみはつていきます。各施設が連携できれば、東伊那の財産として地域に貢献できる施設になると思います」。

東伊那の財産といえば財産区の松茸山。東京築地でも「天竜東の松茸」ブランドで「香りがよく、身がしまっている」と高い評価を受けています。「毎年八月の盆過ぎには松茸山の入札が行われます。財産区議員が酒をふるまい、気が大きくなった入札者は高値を入れてくれます。松茸がたくさん出ると、地域全体が活気づきます。毎年キノコ祭りを開催していますが、シーズン中、松茸料理を提供できるようにすれば観光振興にも寄与するのでは」とも。

同区は約五百戸、このほか、未加入世帯は約百戸もあります。市全体の区長会長でもある林さんは「全区共通の課題です。区への加入促進を図りながら、受益者負担や平等負担の原則に則り、未加入者問題について、市の区長会で議論をしたい」と話していました。

区役員

区長・林 政衛さん
副区長・赤須久三さん

連載

「ばとな」への想い ②

こまがね市民活動支援協会
会長 鈴木明

「先進地」を雛形に

市民活動のための「理想の施設」作りに燃えて研究に入りましたがなかなかイメージが湧かず、議論は空転しがちでした。予備知識が必要ということで、先進施設を見学することにしました。先ず上越市を訪問しました。合併により一気に二十万都市になりその余勢も相まって大きな規模の施設でした。続いて愛知県日進市を訪問しました。急速な人口増加により古いしきたりを打破し、新しいシステムの導入を加速させており、強力なけん引役のリーダーもいて、理想のスタートと見えました。

その後訪問した瀬戸市は、名古屋万博によって多くのボランティア団体が活動し、万博閉会後それら団体の活動の継続を目的に開設したようです。いずれも規模の大きなスタートで、施設もすべて立派なものでした。三箇所とも設立の目的は明確でした。所期の目標が明確なだけに将来を見据えた企画がなされたかと言つと、やや疑問であり、その後の活動にはその歪みが見え隠れしております。私たちは目先の目的だけでなく、将来の「まちづくりの礎」になる施設にしようとして、決心しました。

(次号へつづく)

編集後記

二月八日からカナダのバンクーバーで、冬季オリンピックが開催されました。熱きアスリートたちの戦いは、テレビの画面を通じて鼓動が伝わってくるようでした。テレビ放送が始まった昭和の時代。夕暮れの商店街に人々が行きかい、引きずられるように母に手を引かれて見た風景は、魚屋のおじさんの威勢のいい声やラジオから流れる歌、そして、街頭テレビで力道山の空手チョップに声援を送っていた人ばかりでした。街の音、灯り、匂い。人が肩を寄せ合い、楽しく語り合う街の光景は、時代は変わってもいつまでも残しておきたい大切な時代の宝だと思いました。ばとなでは、市民のみなさんからの情報やご意見をお待ちしております。「こんなことをしている人がいるよ」「みんなでこんなことをしたらいいんじゃないかな？」等、街の情報や話題をたくさんお知らせください。お電話又は、ファックス等でご連絡いただければ、職員がお伺いします。今後、「ばとなだより」やホームページでコーナーを設け、情報やご意見を掲載してゆく予定です。

【事務局長 宮澤】

発行日二〇一〇年(平成二十二年)三月
発行者
こまがね市民活動支援センター